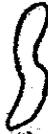


自治篇

第一章 阿萬ノ管轄史

第一項 往昔ノ所屬

阿萬及ビ灘ノ御給人ハ昔諸氏殿ト申シタリシガ國ノ御屋形ノ御代ニハ阿萬殿御知行ノ由ナリ。國ノ御屋形細川彦四郎殿ノ御代ニハ郷殿御知行ニテ其後ハ御弟ノ細川高田殿半分受取レリ。其時阿萬モ灘モ城方ト ト二口ニナリシ由傳フ。其後阿波ノ三好殿ガ淡路國ヲ進退セシ時ハ梶原備前殿・同孫次郎殿ノ同左近ノ太夫殿、同平十郎殿御知行ナリ。

又安宅殿ノ御代ニハ梶原甚吉郎殿御知行ナリ。天正十三年末ニ權兵衛殿ハ國替ニテ讃岐ヘ移リ東國ヨリ脇坂中書殿（中務小輔安治）淡路ニ來ル。（以上榎本利男氏所藏阿萬庄山之次第之事ノ中ニ見エタリ）其後間モナク淡路ハ蜂須賀殿ノ配下ニナリシモノノ如シ）

第二項 阿波藩時代

蜂須賀候御先祖法庵様淡路ヲ御配置アリタル時寛永四年御檢地アリテ以後阿萬郷ニ庄屋仰付ケラル、事トナレリ。

本庄村政所八郎左衛門ノ子重左衛門ハ庄屋組頭仰セツケラレ五代相勤ム。（千百石）

吹上村ハ寛永四年ニ庄屋仰付ケラル。（田村氏二百八十石）

下村ハ寛永四年ニ西村、東村ト分レ共ニ庄屋仰セ付ケラル。（西村ハ藤本氏五百十石、東村ハ榎本氏、重左衛門聲故仮名遣ハシ榎本ヲ名乗ラシム。九百九十石）

寛永十年本庄村ヲ分チ上本庄、下本庄ノ二ヶ村トス。上本庄庄屋八郎左衛門弟太左衛門及九兵衛兄弟三人アリ。九兵衛ノ子長助及太兵衛アリ長助ハ下本庄村庄屋トナリテ江本ヲ称ス。(五百四十石) (榎本利男氏所蔵古書抜粹本書前文失ヒテ傳ハラズ)

庄屋ハ徳川時代ヨリ村内各所ニアリシガ明治四年七月廢藩置縣トナリ郡縣制行ハル、ニ及ビテ在来ノ庄屋ハ廢セラレタリ。而シテ村内最後ノ庄屋ハ東組榎本傳兵衛、西組藤本忠吾、吹上田村八郎、本庄村阿萬庄治ニシテ塩屋ハ代々岡本氏ナリシガ最後ハ黒田嘉吉此職ニアリタリ。

第三項 明治以後ノ状況

明治四年徳島藩ヲ廢シテ徳島縣ト改メ淡路ハ徳島縣ノ一部ニ属セシガ後和歌山縣併ニ大阪ノ一部堺市ト共ニ名東縣ト称セシコトアリ。此時村内區分ハ上本庄村、下本庄村、塩屋村、吹上村

阿萬西村、阿萬東村ト改称サル。當時ノ縣知事ヲ縣令ト称シタリ。

明治九年名東縣ヲ廢シテ兵庫縣ニ属シ浦・村ノ離合アリ。阿萬村(西・東)阿萬浦(塩・吹)本庄村(上・下本庄)ト改称ス。

明治二十二年市町村制發布ト共ニ戸長役場ハ廢止サレ戸長ハ村长ト改称ス。

明治二十五年本庄村・阿萬浦・阿萬村ト合併シテ阿萬村ト称サル、ニ至レリ。

大正六年五月一日ノ内ヲ抹消シ大字名本庄村ヲ本庄、阿萬村ヲ阿萬ニ変更サル。

昭和九年四月一日町制施行阿萬町ト改稱シ現在ニ及ブ。

第二章 藩政時代以後ノ諸役

第一項 五人組・荒頭・區役人

庄屋ノ下ニ各村ニ五人組アリ。主トシテ租稅徵収ノ幫助・警察等ヲ掌ル。即チ殿倉ニ於ケル租稅ノ收納ハ地頭ノ命ヲ受ケシ役人出張シ来リテ收納スルヲ例トセシガ此場合五人組ハ物稅收納ノ斗カキヲ引キテ收納シ、土地・丈量ヲ行ヒ、其他村内紛争等ノ解決ニ當レリ。租稅ハ古クハ七公三民ヲ常トセシガ漸次六公四民ノ割合トナリ、明治ニ入りテ三公七民トシテ改正サル、ニ至レリ。明治初年迄ノ刑罰ハ盜一回毎ニ醫二三ヶ月型ノ燒印一個ヲ捺ス。燒印三個ニ及ベバ之ヲ打首トシ毎年師走二十日円行寺川原ニテ之ヲ行ヒ罪人名・罪狀等ヲ記シテサラスヲ常トセリ。更ニ各村ニハ荒頭八十人アリ。此中ヨリ毎年二十四人ヲ選ビテ其年其村ノ荒頭トシ各種ノ世話ニ當ル。

次ニ區役人ハ各村共十六人アリ。井手普請等土木・水利ノ事ニ當ル。當時ノ人夫賃米五合給与ナリ。

各村最後ノ五人組氏名ハ左記

上本庄	藤平勝平	中川常吉	江本管藏	安宅武平	宮本孫惣
下本庄	本條卯之八	藤原豊吉	郷 幾藏	江本長兵衛	川辺人吉
吹上村	阿部卯三郎	阿部萬作	川原総兵衛	鈴木治平	等ナリ
西 村	村居忠与門	佐古信平	阿部金兵衛	其他ナリ。	東組ハ木本勘吉ニシテ
塩屋ハ岡本周次	山下直助	田中茂与門	山岡五郎惠	中西平兵衛	松本儀作ナリ

第二項 明治初年ノ兵備ノ狀況

明治六年徵兵令發布迄ハ御鉄砲（国付 御奉公人―郷士―現在ノ在郷軍人ニ相當セシカ）アリ。村内在来士族ノ主タルモノ之ナリ。上本庄高田氏、江本氏（力太郎氏先代）吹上田村氏東村金

山氏等ナリ。更ニ農兵ト称シ知行三石陣笠ニ二本ザシノ制アリ。毎月一回筒井山路ノ稽古場ニ行キ訓練ヲ受ケ村内ニ於テハ八幡神社境内ニ於テ訓練スルヲ常トセリ。俗ニ之ヲモお鉄砲組ト稱ス。上本庄村ニテハ森川氏、豊田氏、安宅氏、宮本氏、江本氏等多數アリ。

第三章 戸長役場時代

第一款 明治初年ノ変移

明治四年七月國中在来ノ庄屋ハ與党ト名目替リ、元ノ組頭庄屋ハ里長ト名目替リ此年ヨリ阿萬ノ里長ハ賀集勝平（鍛冶屋村ノ旧庄屋）トナレリ。

明治五年六月里長與党ノ名目ハ廢サレテ戸長、用掛ノ職名トナリ、十一大區ノ戸長トシテ賀集勝平之ガ職ニツキ十一小區ノ用掛トシテ岡本貞郎（上・塩・吹）榎本傳兵衛（東・西）樺田善九郎（伊・南）板東壽之助（筒・中・北）之ガ職ニ當ル。

同六年二月ヨリ更ニ用掛高田浦一郎（上・下）金山襄平（西・東）岡本貞郎（塩・吹）之ガ職ニツケリ。同七年八月ヨリ戸長沼田祐、副戸長田村八郎、奥野季一郎職ニツキ北阿萬ノ會所ニ出張セリ。同十一年沼田祐區長トナリ、奥野氏副區長トナリ本庄村戸長江本長平、塩屋吹上村戸長田村八郎、東・西村戸長奥濱久平職ニ當ル。會所ハ北阿萬ナリ。間モナク會所ハ廢セラレ事務ハ萬勝寺ニテ之ヲ行ヒ以テ明治十六年ニ至ル。

次ニ役場ヲ置クニ至リタルモ別ニ建築セズ或ハ萬勝寺ニ於テ、或ハ宮ノ東ニアリシ小学校ニ於テ、或ハ現在ノ小学校旧東校舎南端ヲ區劃シテ執務セシガ明治四十四年ニ至リ下本庄縣道二面

セル現在ノ地ニ建設を見ルニ至レリ。(更ニ近ク小學校東方隣接地ニ移轉改築サレントス)

第二款 市町村制發布迄ノ戸長役場

第一項 明治十九年度戸長役場収支予算

第一目 本庄村(上・下)収支予算

明治十九年二月廿四日

議長 藤原仁平 議員 中川利吉 江本管藏 土井藤吉 土井長五郎 蔭山澤吉(二十年)

支出豫算

武田貞平(二年)

一金 二十六円十銭

内金十六円也 惣代二名年給 (一名十円 一名六円)

金拾円十銭 惣代二係ル諸雜費

一金 十五円也 里道、橋梁、其他土木費

一金 壹円九十六銭

内金一円二十銭 議員弁當料 一名十二銭

金三十銭 書記日當二日分 一日十五銭宛

金三十銭 席料、炭茶代二日分

金十六銭 諸雇費二日分

合計支出金 四十三円〇六銭也

本庄村救貧救助

一金二十五円七十六銭 白米四石六斗代

(救民五十名ト見積リ一日一人二付一合宛、但シ三才以内ハ五勺、向フ三月一日ヨリ五月三十一日限り九十二日間施与ニ決ス。)

一 本文金額ハ本村救助儲蓄金ヨリ支給致スニ決ス。

一 救助ハ惣代之ヲ担当ス。

一 受給人ハ連署ヲ以テ受給者差出申可事

一 年齢二十才ヨリ四十才迄ノ男子ニシテ壯健ナル者ハ救助不致事ニ決ス。

収入豫算

一金 四十五円也 十九年度前半期地方税本村區別戸別負等級 三百戸一戸十五銭免除四一名

第二目 阿萬村(西・東)収支予算

議長

村居忠与門

議員

金山喜太郎 木本勘吉 濱本文太郎 岡本嘉平
奥濱健太郎 (二〇年榎本勇平) 藤本和作 (二〇年藤本喜八)

村費支出豫算

一金 三十一円五十銭 村惣代費

内金二十円也 惣代年給 村惣代二名 一名十二円一名八円

金十一円五十銭 雜費

一金 三十五円五十銭 土木費

内金十壹円也 道路費

金十三円也 河川費

金三円五十銭 汐除堤防費

金八円也 治水堤防費

一金 壹円五十九銭 会議費

一金 四円也 災害予防費

合計金七十二円五十九銭也 (修正金三十二円七十九銭)

収入豫算

一金 二十二円五十九銭也 地價割

地價現在 六七、四八〇円四七八ヲ一〇〇円二付三銭三厘四七六三五五割

一金 七円八十銭 一月一日現在二六〇戸 一戸二付三銭宛ノ割 但十七戸免除

一金 二円四十銭 営業割 但營業人六十人 一人二付四銭宛

合計金 三十二円七十九銭也

第三目 阿萬浦(塩・吹)豫算

惣代 川崎歌平 議員 阿部金平 黒田嘉吉 折口光蔵 松本傳吉 田岡若平 鈴木次平

本庄村外二ヶ村戸長 田村八郎殿

阿部国吉(二十年阿部萬作)

明治十九年度支出豫算

一金 二百五十六円也 土木費（川浚費、治水費、道路費）

一金 六十円也 救助費（米十二石代金）

貧民百人二付米一合宛一月ヨリ五月十九日迄一二〇日間粥煮出

一金 二十四円四十銭 惣代費

一金 一円七十五銭也 會議費

合計金三百四十二円十五銭也

第四目 明治十九年度各村地方税戸別負等級賦課

本庄村分	阿萬村分	阿萬浦分
金四十五円也（三百十五戸）	金三十九円也（二百十戸）	金五十二円五十銭（二十五戸）
一・六〇 一 一 戸	二・〇三 一 一 戸	一・五六 一 一 戸
一・一七 四 一	一・〇二 二 一	一・四二 二 二
一・〇三 五 一	一・二二 三 二	一・五三 三 三
九〇 六 一	三一 四 一	三・二八 四 八
一・五八 七 二	八七 五 三	三・六〇 五 〇
六九 八 一	一・〇八 六 四	三・九六 六 二
一・八〇 九 三	五二 七 二	四・九三 七 一

第二項 各村聯合町村費收支豫算
 第一目 明治十九年度七番學區町村費支出豫算

外二免除四十四戸	一・五九	一〇	三	一・五〇	八	六	三・八四	八	一六
	四・〇五	一一	九	一・六一	九	七	一〇・七八	九	四九
	七六	一二	二	二・五八	一〇	一二	四・六五	一〇	三一
	六・〇八	一三	一九	一・九五	一一	一〇	四・六八	一一	三九
	二・六〇	一四	一〇	二・八〇	一二	一六	四・〇七	一二	三七
	五・二八	一五	二四	四・〇〇	一三	二五	一・〇五	一三	一五
	二・一六	一六	一二	九・七五	一四	六五	五四	一四	九
	五・七〇	一七	三八	二・三四	一五	一八	一・一五	一五	二三
	三・三六	一八	二八	二・二〇	一六	二〇	七二	一六	一八
	二・〇〇	一九	二〇	一・八九	一七	二一	三六	一七	一二
	一・三三	二〇	一九	六三	一八	九	三八	一八	一九
	五六	二一	一四	四五	一九	一〇	外二免除二九戸		
	一六	二二	八	二五	二〇	一〇			
	六〇	二三	四〇	外二十八名免除					

一金 八百五十円也 教育費

内譯金三百七十四円也 初等科本村小學校費

内金二百六十四円也 俸給 生徒數九二人 教員月俸八円二人補助員月給三・五〇各一人

金十二円也 給与 小使月給一円一人

金八十円也 校費

金十八円也 旅費

金壹百四十二円也 初等科本庄小學校塩屋支校費

内金壹百十四円也 俸給 生徒數六三人 教員月俸七円一人補助員月俸二・五〇一人

金六円也 給与 小使

金十二円也 校費

金二円也 旅費

金壹百五十九円也 初等科本庄小學校阿萬支校

内金百二十六円也 俸給 生徒數三八人 教員月俸八円一人補助員二・五〇一人

金六円也 給与 小使

金二十五円也 校費

金二円也 旅費

金百七十五円也 初等科本庄小學校下灘支校

内金百三十二円也 俸給 生徒數四九人 教員月俸六円補助員月給二・五〇 二人

金 六円也 給与小使

金二十四円也 校費

金十三円也 旅費

右原案通り可決ス

黒田嘉吉 櫻田善九郎 阿部金平 武田貞平 中川利吉 村居忠与門

學校聯合會議員

濱本文太郎 多田幹太 池本勝平 船越又太郎 板東秀太郎 蔭山伊之助

第二目 明治十九年度戸長役場區域聯合町村費収支予算

明治十九年度収支豫算

一金二百八十一円八十錢也 地價割

内金九十九円八十二錢 本庄村

金八十六円五十六錢三厘 阿萬浦

金七十八円九十七錢六厘 阿萬村

金 七円九十九錢九厘 下灘村

金 三円 十六錢六厘 潮崎村

金 三円七十四錢七厘 吉野村

金 一円五十二錢九厘 宇野村

一金五百六十八円二十錢 戸數制

内金百三十四円五十五銭 本庄村 二九九 戸

金 五十七円五十銭 阿萬浦 三五〇

金 百十六円五十五銭 阿萬村 二五九

金 六十二円八十銭 下灘村 一五七

金 二十六円八十銭 潮崎村 六七

金 四十四円四十銭 吉野村 一一一

金 二十五円六十銭 宇野村 六四

合計金八百五拾円也

右負担内譯

二三四・三七^円 本庄村負担金 二四四・〇六三^円 阿萬浦負担金

一九五・五二六 阿萬村 " 七〇・七九九 下灘村 "

二九・九六六 潮崎村 " 四八・一四八 吉野村 "

二七・一二九 宇野村 " " " " " " " " " " " "

明治二十年度聯合町村費収支

一金四百八十七円八十八銭也 教育費及教育補助費

金壹百七十三円八十八銭 稻田尋常小學校經常費補助

金三百十四円也 稻田簡易小學校經常費 二六四円俸給 五〇円諸費

金 七円二十九銭 會議費

明治二十年度聯合町村費收入

地名	地價割	戸數割	負担金円
本庄村	三〇三・四五	一九一・七二	一一一・八四五
稲田村	六七・五九五	四四・二五	九三・七六八
新田村	五三・一六八	四〇・六〇	四四・一三一
阿萬浦	三一・三九一	一二・七四	一〇〇・一三九
阿萬村	五八・六一九	四一・五二	八四・二〇一
筒井村	五三・四一八	三〇・七二	六一・〇八六
	三九・一九六	二一・八九	

第四章 市町村制發布後ノ村勢

第一款 歴代町村長ト主ナル治績並ニ記録

明治二十三年三月三日 初代村長 阿萬庄治

“ 二十四年六月 村長 田村八郎

“ 本庄簡易校ヲ廢シ本庄尋常小學校ヘ移ス

“ 二十四年八月廿六日 村長 土井長五郎

“ 二十五三年三月 村會議決ヲ以テ小學校増築 建築委員 中川利吉

“ 四月 本庄村郷藏ヲ本庄村々々舎ニ借入

二十六八年八月 大旱魁村会決議ヲ経テ經費支出雨乞ヲ行フ

二十七年三月廿七日 村長 中川利吉

縣道改修 工費一、三六〇円本庄上・下・西組分。八五〇円濱地家屋取除費

本庄川、塩屋川、丸田川堤防修理工費 一、六〇〇円

三十一年四月四日 村長 榎本兵次郎

阿萬村条例制定特別税及反別割新設ノ件田一反歩二付二〇銭以内畑七銭以内

八月 郷社々地二八坪本庄尋常小學体操場ニ借入 一年米二斗 村会否決

三月十三日 本庄尋常小學校落成竣工式舉行

十一月 火葬場設置ノ件可決

三十二年八月 傳染病隔離病舎設置ノ件可決 委員藤平彦太郎、島本由吉

三十二年九月 村長 土井長五郎

十月 榎本兵次郎

三十三年四月九日 阿萬北阿萬灘組合高等小學校設置案可決委員藤平彦太郎、濱本文太郎。

廣田村外十ヶ村學校組合加入 議員 藤平彦太郎、島本由吉

十二月 校舎狹隘ノ為阿萬村阿萬浦各一ヶ所二分教場設置案三十四年度阿萬村

一ヶ所 原案可決

他町村トノ組合高等科設置ヲ中止シ本村单独併置三十四年度ヨリ実施案可決

明治三十四年一月二十五日日本庄川、塩屋川、丸田川通堤防工事阿萬村所屬里道灘道改修工事案

可決 委員 川崎歌平 藤平彦太郎

“ 三十五年八月廿六日傳染病隔離病舎建築案再決 委員 藤平彦太郎 島本由吉

三十六年四月 村長 藤原永一郎

“ 三十七年三月十四日阿萬尋常高等小學校全部ヲ四月一日ヨリ經費緊縮ノ為半日學校トナス

ノ件 原案可決

“ 三十八年三月九日 高等科二部教授廢止案 可決

明治三十八年六月一日 村長 藤平彦太郎

十二月廿五日蛇ノ鱗養魚場貸付諮問案 通過

“ 三十九年二月十七日縣費補助稟請阿萬港灣改修案可決 工費全村四分關係部落六分負担

“ 四月一日 日露戰役ノ功ニヨリ勲七等青色桐葉章併ニ一時金下賜サル

“ 四十年一月廿一日 四月一日ヨリ二十ヶ年計劃ニテ阿萬村基本財産蓄積案 可決

阿萬村基本財産蓄積條例 基本財産管理規定制定

明治四十年四月二日 村長 郷 孫助

十月六日 青年會援助 青年大會開催

四十三年二月 役場新築案 可決 工費一、二五五円一四六

四十四年三月末落成移轉

八月 三ヶ村共有山林整理組合規約議事細則 議了

十一月廿九日 入營者報告祭ヲ神前ニ舉行ス

十二月十二日 校舎増築（四十四年度）可決 委員監督藤平彦太郎工費一、〇七〇円

大正二年 五月 佐野里道改修村費補助三七〇円 委員藤平彦太郎

三年 一月 東組道路改修村費補助 監督榎本兵次郎

四年 八月 青年會、補助助長

十一月 御即位大典遙拜式

〃 五年十一月 立太子禮奉祝

七年 九月 赤痢病蔓延

八年十一月 赤痢、腸チブス罹病者多シ

九年 八月 大洪水、決潰破壊堤防河川堰溜池復舊工事補助申請

九年十月一日 第一回國勢調査

〃 家産財団同盟會設立

〃 民力涵養必須事項決定宣傳

〃 戸主會、主婦會、處女會設置

十年七月十三日 大洪水ニ依ル決潰破壊海岸防波堤用水道路堤防復旧工事縣費

〃 九月 補助稟請

大正十三年一月十二日

村長 村居佐平

十五年九月

小學校運動場拡張ノ件 可決 四反四畝 工費一二、〇〇〇円

〃

村有林植林

昭和 二年

阿萬郡家線縣道丸山坂口道路拡張認可

兵庫縣道路愛護團共進會 三等入賞

昭和 三年一月十七日

村長 銀山惣吉

今上陛下御即位大禮 十一月十六日奉祝余興

河内字小倉一九七四番山林四町六反步整地植林

道路愛護團共進會 二等入賞

四年六月卅一日

東側校舎落成一〇〇坪 總經費五、八五六円一〇

六十有餘年末ノ大旱魃免租地 田五八町六反八畝一二步 一、二四六

三七〇人 畑八町七反一畝四步 五三〇 二七四人

四年九月十八日

火葬場設置案可決 位置工事ハ常設委員附託

道路共進會 一等入賞 賞金二百円

〃 十月

稅務既往二十七年國稅完納の故ヲ以テ大阪稅務監督局長ヨリ表彰サル

〃 一月

南側校舎増改築完了桁行十八、梁五 九六坪總經費六六一八円四二

常任監督銀山村長岡本校長 委員土井文吉

五年十月

第二回国勢調査 所帶數一〇一〇男二四二五女二四〇七 計四八三二

所一、二〇〇円 第二回八ヶ所一、九九〇円

傳染病患者 腸チフス二六名(七死) チフテリア八名(三死) 赤痢一(死) 疫痢一名

昭和九年九月廿一日 颱風災害復旧土木工事 三二、〇〇〇円豫算

四月一日 町制實施 町紋章設定

九月一日 酒なし日舉行

道路愛護共進會第三等入賞

災害土木復旧補助申請箇所 道路一ヶ所一〇円堤防三ヶ所一、九〇〇円

防波堤二ヶ所一、七〇〇円汐除堤防三ヶ所五、二〇〇円突堤四ヶ所二三、〇五〇円

傳染病腸チフス二二名(五死) チフテリア八(四死) 疫痢二(二死)

諸税 國稅五、二八九円〇六 縣稅一一、八三〇円五三 町稅二〇、〇七〇円六二

第二款 歴代助役並ニ收入役

助 役

明治二十二年七月二十四日 村居忠与門 明治三十二年 村居忠与門

二十六年八月五日 三十四年一月十四日 篠原勇平

三十年八月十一日 榎本兵次郎 三十五年九月十日 郷 孫助

三十一年四月二十七日 藤原永一郎 三十七年一月廿五日 銀山惣吉

三十五年四月二十七日 三十八年三月二日 島本由吉

三十六年四月二十七日 藤平彦太郎 三十九年三月廿八日 銀山惣吉

收 入 役

明治三十八年六月十六日 江本藤治
明治四十年一月廿六日 櫻田隆次郎

四十二年七月三日
四十四年一月廿六日

四十三年二月二十四日 阿部信平
大正 四年一月廿六日

大正三年三月七日
七年八月十七日 松本弥平

四年二月十八日 村居佐平
十年八月十七日

八年三月廿六日 銀山惣吉
十三年十二月廿五日 榎本繁市

十二年三月三十一日
昭和 三年二月七日 榎勢勇吉

昭和二年四月二日
七年
七年

三年二月七日 榎本繁市
十一年
"

七年二月七日
十二年
金一桂

十一年二月七日
"

第三款 町村會議員

明治二十二年四月二十五日選舉

阿部金平 藤平彦太郎 川崎歌平 田村八郎 土井藤吉 中川利吉 阿萬庄治 江本元次郎

" 二十六年四月二十五日選舉

藤平彦太郎 森川本藏 濱本文太郎 川崎歌平 土井長五郎 松本傳吉 阿部金平

中川利吉 藤原永一郎 木本勘吉 (以下二八年迄) 岡本嘉平 蔭山澤吉 島本由吉

明治三十年四月二十五日改選

江本正之 松本傳吉 谷口幸次郎 藤平彦太郎 阿部平太郎 蔭山澤吉 阿部金平
島本由吉 土井長五郎 濱本文太郎 川崎歌平 藤原永一郎

明治三十四年四月二十五日選舉

谷口幸次郎 濱本文太郎 島本由吉 土井長五郎 江本藤治 江本正之 清水席平
藤平彦太郎 奥野多喜太 松本傳吉 阿部平太郎 阿部信平

明治三十七年四月二十五日改選

鄉 孫助 中西萬吉 岩鼻弥生八 谷口幸次郎 江本藤治 阿部信平 土井長五郎
阿部平太郎 島本由吉 江本正之 濱本文太郎 榎本兵次郎

明治四十年四月二十五日改選

藤平彦太郎 阿部信平 岩鼻弥生八 榎本熊藏 榎本辰藏 鄉 孫助 榎本兵次郎
土井長五郎 谷口幸次郎 松本仁吉 藤原永一郎 阿部平太郎

明治四十三年四月二十五日改選

阿部信平 榎本幸市 藤平彦太郎 赤榎七藏 榎本熊藏 谷口忠次郎 山下秀藏
濱崎弁太郎 榎本兵次郎 島本由吉 松本仁吉 阿部平太郎

大正二年四月二十五日改選

山崎善六 倉本伊平 谷口忠次郎 南熊三郎 阿部信平 阿部喜代藏 榎本熊藏

松本庄太郎 榎本峯吉 濱本文太郎 榎本兵次郎 谷口幸次郎

大正六年四月二十五日改選

川崎歌平 村居佐平 堤庄三郎 島本由吉 長池喜三郎 赤穂正義 倉本伊平

榎本峯吉 阿部喜代藏 木本高次郎 南熊三郎 阿部千賀藏

大正十年四月二十五日改選

南熊三郎 村居佐平 垣脇鶴平 池田重藏 榎田隆次郎 森川八郎 岩鼻弥生八

阿部喜代藏 赤穂正義 木本高次郎 松本庄太郎 阿部千賀藏

大正十四年四月二十五日改選

阿部幸次郎 岡本治一 楠木勇吉 谷口龜五郎 垣脇鶴平 土井文吉 木本隆次郎

藤本鷹平 阿部三右工門 倉本伊平 池本常太郎 大西文次

昭和四年四月二十五日改選

松本弥平 濱本龜一 江本金作 阿部三右工門 南熊三郎 安宅秀雄 池本常太郎

榎本只吉 谷口龜五郎 垣脇鶴平 岡本治一 榎本弥市

昭和八年四月二十五日改選

木本隆雄 榎田長策 谷口龜五郎 岡本長七 仲山快藏 岡本治一 阿部三右工門

南熊三郎 松本弥平 大西又一 土井宇市 佐古源太郎

昭和十二年五月八日改選

木本隆雄 岡本長七 山口政一 阿部三右工門 興津三次郎 松本弥平 岡本義一
 谷口龜五郎 岡本治一 土井宇市 南熊三郎 阿部傳作 仲山快藏 藤平保 岡本高市
 木本七藏 大西又一 江本正之

第四款 町村費豫算ノ推移

第一目 明治二十五年年度歳入出豫算決算

(歳入ノ部)

科目

本年度豫算

本年度実収額

附記

一. 財産収入	三一四・五五六	三一・五五六	
預金利子	三一・五五六	三一・五五六	
二. 雑収入	一八八・六七八	二六九・五七六	
1. 授業料	一八〇・〇〇〇	二二二・三三〇	尋常小学校生徒二百人
2. 並木公賣代		三五・〇三六	
3. 下糞代	四・二〇〇	四・一〇一	学校下肥代
4. 預入金利子	三・四七八	八・一〇九	
5. 不豫収入	一・〇〇〇		
三. 前年度繰越金	二一〇・六三一	二一〇・六三一	
四. 交付金	二二・〇〇〇	三一・九二七	

1. 国税交付金	七・二〇〇	七・四八八	百分ノ四手數料
2. 地方税交付金	一四・八〇〇	二四・四三九	〃
五. 町村税	七六六・七九四	七六六・七一九	
1. 地價割	七二六・三一五	七二六・二一九	
2. 戸數割	四〇・四七九	四〇・九〇〇	
合計	一、二一九・六五九	一、三一〇・四〇九	
(歳 出 ノ 部) 經常部			
一. 役場費	三五七・七〇	三八三・〇六六	
1. 給料	一四五・〇〇	一三六・九九〇	
イ 書記料	九〇・〇〇	九〇・〇〇	
ロ 附屬員給料	一〇・〇〇	一・九九〇	
ハ 使丁給料	四五・〇〇	四五・〇〇	
2. 雜給	八九・〇〇	一五一・一八〇	
イ 旅費	一二・〇〇	一一・八八〇	
ロ 報酬	六六・〇〇	一三六・〇〇	村長年七〇円 助役兼収入役
ハ 學務委員旅費	二・〇〇		年六六円
ニ 〃 報酬	六・〇〇	三・〇〇	二人分

3. 需要費	一二〇・五〇〇	九四・三四二
イ 備品費	三・〇〇〇	一六・〇一六
ロ 消耗品費	六〇・〇〇〇	四四・六七七
ハ 賄費	一〇・〇〇〇	七・二〇〇
二 通信運搬費	九・〇〇〇	六・七六五
ホ 雑費	二〇・〇〇〇	一九・六八四
4. 常時修繕費	三・二〇〇	五五四
イ 役場修繕費	二・〇〇〇	四三四
ロ 揭示場修繕費	一・二〇〇	一二〇
二. 會議費	三七・〇五〇	一七・五四五
三. 土木費	七〇・〇〇〇	九四・二九六
1. 道路費	六〇・〇〇〇	四八・三六〇
2. 堤防費		三五・〇三六
3. 橋梁費	一〇・〇〇〇	一〇・九〇〇
四. 教育費	四三四・八五〇	四二二・九九二
1. 尋常校費	三四二・〇〇〇	三三八・四〇〇
イ 准訓導	四八・〇〇〇	四八・〇〇〇

訓導月給九円八円六円各一人
准訓導月給四円一人

口使丁給料	一八・〇〇〇	一四・四〇〇	
2. 雜給	五・七六〇	五・六六〇	
イ旅費	一・〇〇〇	一・〇〇〇	
口雇人費	二・〇〇〇	一・九〇〇	
ハ教員退隱料	二・七六〇	二・七六〇	
遺族扶助料	八七・〇九〇	七八・九三二	
3. 教費			
イ備品費	二〇・五〇〇	二〇・五七九	
口消耗品費	二五・〇〇〇	二七・一一三	
ハ借地借家料	一七・〇九〇	一八・〇八一	
二修繕費	一〇・〇〇〇	八・七〇一	
ホ賞与費	二・〇〇〇	一・三三五	
五. 衛生費	一七・六〇〇	一〇・五三五	
六. 勸業費	五・〇〇〇	一・二七四	
七. 豫備費	三九・〇四六		
八. 救助費	一・〇〇〇		
九. 諸税及負担	一七・一九四	一七・一九四	
十. 聯合区費	三・〇〇〇	三・〇〇〇	

小使給一円二〇錢

合計 九八二・四四〇 九四九・九二〇

第二目 明治三十年度歳入出豫決算

明治三十年度歳入出決算額
 歳入 七、〇二九・七七〇
 歳出 七、〇一一・二二八
 差引 一八・四四二

(歳入ノ部)

科目	本年度豫算	本年度決算額	附記
一. 財産ヨリ生ズル収入一、二五八・六二九	一、二五八・六二九	一、二五八・六二九	尋常小学校建築充当金 三八一・九四 仮定縣道当置金 四三・一五八 尋常校資産金 三九八・七三八 基本財産 五六・七九七
1. 貸付金返還 一、二五八・六二九	一、二五八・六二九	一、二五八・六二九	
二. 雑収入 二三〇・一〇〇	二三〇・一〇〇	三三九・四九七	
三. 前年度繰越金 三二・六二五	三二・六二五	四五・〇七〇	廿九年度餘剩金
四. 縣稅補助 三七八・一五七	三七八・一五七	四四七・六五八	本庄上・下塩屋堤防修理費補助
五. 寄附金 三七八・一五七	三七八・一五七	四四七・六六〇	
六. 国庫交付金 八・〇〇〇	八・〇〇〇	一四・八七六	徴収額三七一・九〇ニ對スル百分ノ四
七. 縣稅交付金 一六・〇〇〇	一六・〇〇〇	三六・一一一	徴収額九〇二・七七五ニ對スル百分ノ四
八. 村稅 二、〇二八・〇一〇	二、〇二八・〇一〇	二、〇二六・六九六	
1. 地價稅 一、〇一七・七五二	一、〇一七・七五二	一、〇一七・七三九	地租五、〇八八・六九五一円二付キ二十錢
2. 戸數割 一、〇一〇・二五八	一、〇一〇・二五八	一、〇〇八・九五七	本年度縣稅戸數割乘率ニヨル

科目	(歳 出)		附記
	本年度豫算	本年度決算	
九. 借入金	六三一・四〇四	一、九六八・五四七	縣道潰地買入代
十. 郡費補助	三五〇・〇〇〇	四四五・〇二六	
1. 土木費補助	三五〇・〇〇〇	四四五・〇二六	縣道潰地買入郡費補助
計	七、四八四・九二五	七、〇二九・七七〇	
一. 役場費	四七四・五〇〇	四三三・四二五	
1. 給料	一八六・五〇〇	一八九・一八八	
2. 附屬員給料	二四・〇〇〇	二九・四三八	
3. 使丁給料	四八・五〇〇	四四・七五〇	二百給一人二年分、郡役所行給与
4. 雇人料	二・〇〇〇	四・九九八	
5. 需要費	一三八・〇〇〇	一一〇・一二九	
6. 常時修繕費	三・〇〇〇		
二. 會議費辨償	三〇・七五〇	三三・三五〇	
三. 土木費	一三〇・〇〇〇	一二八・六五〇	
四. 教育費	六〇三・三六〇	六一五・二六四	
1. 給料	四九八・〇〇〇	四八三・二六〇	

2. 雜給	六・三六〇	九・七三四
3. 校費	八八・〇〇〇	一二二・二七〇
4. 常時修繕費	六・〇〇〇	
5. 衛生費	八九・〇〇〇	五七・三三三
6. 勸業費	五・〇〇〇	四・八八〇
7. 諸税及負擔	一二一・〇〇〇	二二五・三六四
計	一、九一八・六一〇	一、四九八・二六六
臨時部		
一. 教育費	二、〇四五・〇〇〇	二、一二一・八一
1. 小學校費建築費	一、九五三・〇〇〇	一、八九〇・四五五
2. 敷地買収費	三〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇
3. 家屋移轉費	二〇・〇〇〇	四一・四八〇
4. 敷地々均費	二〇・〇〇〇	二三・九三二
5. 建築委員実費弁償	一二・〇〇〇	一二・〇〇〇
6. 雜費	一〇・〇〇〇	一三二・九四四
委員二人分		
二. 豫備費	一四〇・〇〇〇	
三. 土木費	一、〇六四・六六五	八九五・三一八

經常部計 五、八七九・六六五 五、五一三・〇六二

合計 七、七九八・二七五 七、〇一一・三二八

第三目 明治卅十年度村費豫算決算

歲入決算高 四、九八〇・八〇四

歲出 四、一六〇・八九七

一一〇・〇七四

經常費
歲出臨時費

計 四、二七〇・九七一

四十年年度歲入出決算 四、七一二・五五四

(歲入ノ部)

科目 本年度豫算

本年度決算

附記

一、雜収入 三八九・〇〇〇

三七四・六四八

二、前年度繰越金 七四・〇〇〇

七〇九・八三三

三十九年度決算殘金

三、寄附金 一二五・〇〇〇

一八七・八二九

未費寄附、河川堤防道路修繕費

四、縣費補助金 一一〇・〇〇〇

橋梁及土木修繕中へ寄附

五、郡費補助金 五〇・〇〇〇

六〇・六一九

土木費補助

六、村稅 二、三〇二・〇〇〇

三、三七九・六二五

1. 地價割 八八〇・〇〇〇

八八一・三五七

科目	本年度預算	本年度決算
一、役場費	七四二・〇〇〇	七七三・三六二
1. 給料	三三六・〇〇〇	三一五・五〇〇
2. 雜給	二九一・〇〇〇	三〇九・二三〇
3. 需要費	一〇九・	一四三・七五二
4. 常時修繕費	六・	四・八八〇
二、會議費	七二・	一四・七〇〇
三、土木費	五六五・	四九〇・五四八
四、教育費	一、八四五・	一、七五四・八二九
合計	四、〇五〇・〇〇〇	四、七一二・五五四
歲出	三、六八四・六九九	
歲出經常費		
2. 戶別割	二、二一四・〇〇〇	二、二二七・六九〇
3. 国税營業割	一〇・〇〇〇	一三・四四〇
4. 所得割	一二・〇〇〇	一七・一六八
5. 縣稅營業割	八一・〇〇〇	八七・四三〇
6. 全雜種割	一〇五・〇〇〇	一五二・五四〇

附記

村會議員實費弁償
 河川、堤防、橋梁道路修繕費

1. 給料 一、五六〇・

一、四九〇・八八六 教員給料 使丁給料

2. 雜給 一三四・

九七・五八五

3. 校費 九三・

一二七・三五八

備品、消耗品、通信運搬、雜費

4. 常時修繕費

五. 衛生費 一〇一・

八一・一七〇

六. 勸業費 一〇〇

〇

七. 諸税及負擔 五四七・

五四七・四四〇

八. 豫備費 一〇〇・

合計 三、九七三・

三、六六二・〇四九

歲出臨時費

一. 補助費 七七・

二二・六五〇

1. 村農會補助 四七・

二二・六五〇

2. 衛生給合補助 三〇・

〇

合計 七七・

二二・六五〇

第四目 大正十年度歲入出決算

歲入ノ部

決算

決算說明

款	目	本年度		種目	決算額	付記
		預算	決算			
一、使用料	使用料	四七一	四一七・七〇〇	一、學校授業料	三九三・〇〇〇	高等科生授業料
		四七一	四一七・七〇〇	二、実業補習校全上	二四・七〇〇	補習生 全
二、国庫下渡金	義務教育下渡金	七八二	七四五・一五〇	義務教育下渡金	七四五・一五〇	義務教育下渡金
		七八二	七四五・一五〇			
三、縣費補助金	1. 傳染病豫防費	九一	一〇六・〇〇〇	一、傳染病予防費	一〇六・〇〇〇	傳染病予防費
	2. 統計補助	一二〇	一〇〇・〇〇〇	二、統計吏員補助	一〇〇・〇〇〇	
	3. 補習校補助	七〇				
	4. 土木費補助	五、二〇五	五、〇九三・九〇〇	災害土木費補助	五、〇九三・九〇〇	
	5. 罹災者救助補助	三五	三三・三〇〇	罹災者救助補助	三三・三〇〇	
四、郡費補助金	1. 補習學校補助	九〇	一二四・〇〇〇			
	2. 常入夫設置補助	六〇	四八・〇〇〇			
		三〇	七六・〇〇〇			
五、寄附金	1. 道路橋梁寄附	二一三	二〇四・〇〇〇			
	2. 港灣治水寄附	二〇〇	〇			

歳入合計	八、村税	六、繰越金	七、雑収入
二八、七七〇	1. 地租附加税 四、〇八三 2. 所得税附加税 一六八 3. 營業稅附加税 三〇九 4. 戸數割附加税 一五、九三六 5. 縣稅營業稅全 二七二 6. 縣稅雜種稅全 五五〇 7. 賣業營業・稅附加稅 一	3. 傳染病予防寄附 一 4. 村費寄附 五 5. 小學校寄附 五 前年度繰越金 一八九・九三七	1. 役場雜收入 三 2. 預金利子 八〇 3. 枯損木賣却代 一
三〇、〇七四・〇四七	二二、三一九 二二、七六六・八六〇 四、〇五七・九三〇 二六七・七九〇 三八二・四八〇 一五、九四八・八七〇 四九一・二五〇 一、六一八・四七〇 〇七〇	〇 二〇四・〇〇〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇
	地租割 所得割 國稅營業割 戸數割 縣稅營業割 縣稅雜種割 賣業稅割	村費中へ指定寄附 前年度繰越金	役場雜收入 當座預金利子
	四、〇五七・九三〇 二六七・七九〇 三八二・四八〇 五、九四八・八七〇 四九一・二五〇 一、六一八・四七〇 〇七〇	二〇四・〇〇〇 一八七・九三七	二一・九七〇 二七一・二三〇

歳出經常部算

決算説明

科 目	款 項	本年度		種 目	決算額	付 記
		予算	決算			
一 役場費	1. 報酬	三、九八三	三、八四二・三〇〇	一 町長報酬	五一六・〇〇〇	村長一年分報酬
	2. 給料	九四二	九四二・〇〇〇	二 助役	四二〇・〇〇〇	助役
	3. 雑給	一、一八〇	一、一七六・〇〇〇	三 學務委員	六・〇〇〇	學務委員
		八八二	一、〇一八・〇五〇	一 書記給料	六九六・〇〇〇	書記二人分
				二 收入役	四八〇・〇〇〇	收入役一年分
				一 費用弁償	三三九・三二〇	
				二 旅費	一三五・五三〇	
				三 文具料	一五・〇〇〇	
				四 給仕吏丁給料	三五八・〇〇〇	
				五 村医手當	七〇・〇〇〇	
				六 雇人料	四五・〇〇〇	
				七 賞与	五五・〇〇〇	
二 會議費	4. 需要費	八八九	六五七・二六〇	一 備品費	一五五・二九〇	
				二 消耗品費	一九四・〇四〇	
				三 印刷費	一八〇・八三〇	
				四 通信運搬費	二六・〇〇〇	
				五 贈費	五四・七五〇	
				六 火災保險費	一六・〇〇〇	
				七 雜費	三〇・三五〇	
	1. 費用弁償	二七三	一七八・〇〇〇	一 議員費用弁償	一七八・〇〇〇	村會議員
	2. 給料	二四〇	一七八・〇〇〇			
		三〇	〇			

二、土木費	五、三二五	二、四八五・五八〇	1. 道路橋梁費 2. 橋梁費	一〇〇・〇四〇 五八・五四〇	佐野丸田中西道路 明神橋 オゴラ金屋菖蒲谷
1. 道路橋梁費	一七〇	一五八・五八〇	1. 道路費	一〇〇・〇四〇	
2. 堤防堰堤溜池費	五、一五五	二、三三七・〇〇〇	2. 橋梁費	五八・五四〇	
三、傳染病 予防費	五五二	三七二・六三〇	1. 手當	一三六・五〇〇	
1. 雜給	二六七	二六五・六〇〇	2. 雇人料	三九・一〇〇	
2. 需要費	八五	八七・五三〇	1. 藥品代	五七・三三〇	
3. トラホーム 予防費	二〇〇	一九・五〇〇	2. 雜費	三〇・二〇〇	
四、隔離病舎費	二五	二・五七〇			
需要費	二五	二・五七〇			
五、寄附金	二〇	〇			
六、度量衡器検査費	五〇	五〇・〇〇〇			
七、選舉費	二〇	一九・五七〇			村會議員選舉費
臨時部計	六、八五二	三、七八〇・三五〇			
歳出合計	二八、七七〇	二四、五一八・九九〇			

第五目 昭和九年度阿萬町歳入出決算
 歳入 金 三七、五一〇・九六錢

歳入決算額

款	科目	決算額		種目	當初予算額	追加更正 予算額	計	調査済額	備考
		使用料	交付金						
使用料	使用料	六五〇・七〇	六五〇・七〇	高等生授業料	五二〇		五二〇	六五〇・七〇	
		六五〇・七〇	四九七・九三	以下項及 當初予算額ニ全シ	五二〇		五二〇	以下 決算額ニ同シ	
	国稅徵収交付金	六五〇・七〇	二四七・九三		二八五		二八五		
	縣稅	六五〇・七〇	二二七・四〇		二二〇		二二〇		
	地租名寄掖 整理交付金	六五〇・七〇	一一・六〇		三〇		三〇		
	國庫下渡 義務教育費	六五〇・七〇	六、九七二・五三		六、五一〇		六、五一〇		
	短期現役兵 下渡金	六五〇・七〇	六、九七二・五三		六、五一〇		六、五一〇		
	國庫補助 金	六五〇・七〇	一、五〇九・三〇		一、〇五〇		一、〇五〇		

歳出
 金 二二三、五二五・〇〇
 金 一〇、二三八・七〇
 } 計 二三三、七六三・七〇
 經常部決算額
 臨時部 "

歳入出差引殘金 三、七四七・二六
 内 金 一〇〇円 條例及決議ニ基キ基本財産ニ蓄積
 金 三、六四七・二六 昭和十年度へ繰越

縣補助金

寄附金

救護費補助	一六〇・六〇	二〇〇		
小学校費補助	一、三四八・七〇	八五〇		八五〇
	二、三八七・六五	一、四三〇	一、一五〇	二、九四〇
衛生費補助	五九二・〇〇	三〇〇	八八〇	一、一八〇
統計補助	一二七・〇〇	一三〇		一三〇
実修学校補助	三七八・〇〇	三〇〇		三〇〇
土木費補助	二四二・四〇	二〇〇	六三〇	八三〇
青訓補助	六七・〇〇	一〇〇		一〇〇
救護費補助	九一・二五	一〇〇		一〇〇
家屋税調査補助		二〇		二〇
就学奨励補助	一六四・〇〇	一〇〇		一〇〇
造林補助	七二六・〇〇	二二〇		二二〇
児童給食補助		六〇		六〇
	二、二六二・三九	一、〇八六	一、〇七〇	二、一五六
土木費寄附	七九五・八五	四五〇		四五〇
町費寄附		五〇〇	七〇	五七〇
小学校費寄附	一三五・〇〇	一三六		一三六
祝賀費寄附	六七六・三〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇

合計	繰入金 歳入	町税	繰越金	雑収入
三、七、五二〇・九六				
			家屋救護寄附	六五五・二四
				一、四五四・七四
				一、二七〇・四一
			預金利息	一七二・四二
			枯損木賣却代	二一五・〇〇
			過年度雑収入	八二九・〇四
			雑収入	五四・九五
				二〇、〇〇五・三一
		地租付加税		二、九二〇・三一
		特別地租		五八五・四五
		付加税		二二・〇九
		警収税		四一八・三四
		家屋税		五七六・八一
		營業税		二、四〇八・六七
		雑種税		二、八八四・六四
		特別税戸數割		五〇〇・〇〇
三〇、七四七	六、三〇八	三七、〇五五		
				一、七六六
				三〇七
				二〇〇
				五
				二
				一〇〇
				一七、五五二
				二、九七〇
				六〇三
				九九
				四一〇
				五八五
				二、五二二
				一〇、三七三
				五〇〇
				二、五二七
				二〇、〇〇六九
				二、九七〇
				六〇三
				九九
				四一〇
				五八五
				二、五二二
				二、八九〇
				五〇〇
三、七、五二〇・九六				
三、七、五二〇・九六				

土木費

小學校費

実修學校費

雜給	一、四五六・一三	一、三五一	一、三五一
需要費	八二七・一三	七七〇	七七〇
修繕費	三五・一八	八〇	八〇
道路橋梁費	三〇八・八二	六六五	六六五
常人夫費	五三・八二	三一〇	三一〇
	二五五	二五五	二五五
	三、二四〇・二四	一三、三〇四	二九・五五
給料	一一、三四七・〇〇	一一、六〇四	一一、六〇四
雜給	五八六・三一	五九九	五九九
需要費	九八五・三六	一、〇〇一	一、〇〇一
修繕費	二八一・六二	二六〇	二六〇
獎勵費	三九・九五	四〇	四〇
	一、七四八・四八	一、八二三	一、八二三
給料	一、二六〇	一、三三〇	一、三三〇
雜給	二七一・〇四	二七八	二七八
需要費	一七九・〇六	一八五	一八五
修繕費	三八・三八	四〇	四〇

救護費	貧困者救護費	四〇〇・〇〇	四〇〇	四〇〇	四一〇
	罹災者	一〇・〇〇	一〇	一〇	一〇
地方改良費		一八二・四五	二五五	二五五	二五五
警備費		一八〇・〇〇	一八〇	一八〇	一八〇
財產費		二七七・五一	二三五	二三五	二三五
	管理費	一七一・四〇	一七一・四〇	一七一・四〇	一七一・四〇
	保險料	一四五・〇〇	一四五	一四五	一四五
	手當	三〇	三〇	三〇	三〇
	建物維持費	一〇六・一一	六〇	六〇	六〇
諸税及負担		一三九・四〇	一四五	一四五	一四五
雜支出		三八八・〇〇	三四四	三四四	六四九
	滯納処分費		一	一	一
	過年度支出	一五・〇〇	一〇	一〇	一〇
	繰越金	二〇一・〇〇	一五三	一五三	四五八
	雜支出	一七二・〇〇	一八〇	一八〇	一八〇
交附金			三	三	三

豫備費

歳出經常費

歳出臨時部

一三三・五二五

二四・〇八七

八四三三四・九二九

三〇〇

三〇〇

科目	款	項	決算額	種目	当初予算額	追加予算額	計	備考
	治水港湾費	一、六六八・九七		二、二三〇		二、二三〇		
	土地購入費	一二七・二七		六〇〇	一一〇	七二〇		
	雜費			一六〇		一六〇		
傳染病予防費	雜給	三、一四九・九三		一〇〇		一〇〇		
	需要費	一、五〇八・八八		八〇〇	二、八九五	三、六九五		
		一、六四一・〇五		四〇〇	一、三四〇	一、七四〇		
補助費	勸業補助	一、七五五・		四〇〇	一、五五五	一、九五五		
		一、二〇〇・		一、七五五		一、七五五		
	各種団体補助	五五五		一、二〇〇		一、二〇〇		
				五五五		五五五		
				二〇五		二〇五		
				一〇〇		一〇〇		
				一〇〇		一〇〇		
				在郷軍人				
				青年団				
				衛生会				

第五款町村各種名譽職

第一目郡會議員

明治三六・九・三〇	當選	榎本兵次郎	明治四〇・九・三〇	當選	藤原永一郎
明治四三・三・二六	當選	藤平彦太郎	明治四四・九・三〇	當選	島本由吉
大正四・九・三〇	當選	榎本兵次郎	大正四・二・一〇	補欠	郷孫助
大正八・九・三〇	當選	村居佐平			

第二目學務委員

校內		校外	
明治四五・一・一	榎勢勇吉	明治四五・一・一	藤平彦太郎
大正一四・一・二三	岡本長七	大正三・三・三一	山下秀藏
昭和二・四・一		明治四五・一・一	阿部信平
" 八・三・三一		大正三・二・二八	
" 八・五・二〇	岸上岡市		
		昭和二・四・一	濱本文太郎
		" 一二・五・一九	谷口龜五郎
		" 四・五・二〇	南熊三郎
		" 八・五・一九	南熊三郎
		" 八・五・二〇	榎田長策
		" 一〇・五・一九	岡本長七
		" 八・五・二〇	南熊三郎
		" 一二・五・二〇	藤平保

第三目其他の名譽職

大正一二・四・一	榎田隆次郎
昭和二・三・三一	岡本治一
昭和二・四・一	岡本治一
" 一二・五・一九	岡本治一
昭和四・五・二〇	安宅秀雄
" 八・五・一九	安宅秀雄
昭和八・五・二〇	松本弥平
" 一〇・五・一九	松本弥平
" 一〇・五・二〇	木本隆雄
" 一二・五・二〇	土井宇一

阿萬村教育會長

歷代町村長

赤十字社阿萬分區長

全上

日本海員掖濟會阿萬委員長

全上

阿萬町衛生組合長

全上

愛國婦人會阿萬分區長

歷代町村長婦人

第四目 各組總代 (區長) 大正十三年一月十四日

區長卜改正

上組

明治十九・二就任

宮本吉次

〃 二六・二就

森川本藏

〃 三七・二就

蔭山澤吉

〃 三八・三・一・就

森川本藏

〃 四二・二・二七〃

銀山惣吉

大正七・一・二六〃

櫻田長策

昭和二・一・六〃

江本金作

〃 一〇・一・三〃

大西又一

下組

島本友七

明治三〇・一・大七・一・一〇

島本由吉

大正七・一・一〇

土井長五郎

〃 一〇・一・一〇

土井文吉

昭和二・一・一〇

松本弥平

塩屋

松本傳吉

川崎歌平

黒田嘉吉

中西平兵衛

田中徳藏

"	"	昭和	"	"	"	"	大正		"	"	"	"	大正	"	"	"	明治	
.一.一	三.一.一	二.一.一	一四.一.一	一二.一.一	五.一.一	四.一.一	四.一.一	二.一.一	七.一.一	九.一.一	一一.一.一	一三.一.一	二.一.一	四四.一.一	四二.一.一	四〇.一.一	三八.一.一	三一.一.一
岡本高市	平野善七	松本與市	藤本鷹平	原 龜吉	仲野平吉	中家春吉	岡本治一	岩鼻武市	川崎歌平	岩鼻弥生八	岡本治一	山下秀藏	岩鼻鹿藏	松本仁吉	岡本虎一	川崎歌平		

佐野

丸田	"	昭和	大正	不詳	昭和	"	"	大正	"	明治	吹上	"	明治	中	"
	九.三.九	三.二.一二	二.二.一二		五.一.一〇	一三.一.一〇	一〇.一.一〇	四.一.一〇	三三.一.一〇	八.一		三五.九	三〇.一.一	八.一.一	
濱本龜一	谷口龜五郎	榎本繁一	濱本文太郎	阿部傳作	阿部喜代藏	阿部喜三郎	阿部千賀藏	阿部信平	阿部金平	阿部金平	南熊三郎	森本龜吉	黒田嘉市	櫻木長太郎	

西組

吹上

大正一〇・四・二五 池本 常太郎
 " 一二・四・二四 池本 惣吉
 昭和一一・一二・八 池本 常太郎

東組

明治三四 榎勢 勇吉
 大正一〇 榎本 龜一

第六款 土地二 関スル諸統計
 民有々祖地統計(昭和七年ヨリ地價ヲ貸賃價格ト改正)

反別	地價	平均一反地價	筆數	反別	地價	平均一反地價	筆數
大正四年	三二七町六	一六一・六三八円	六、一二八	三九・五	五、七七五		一、九六三
大正十年	三三〇・五	一六二・四三六	六、二三八	三九・六	五、七五四		一、九八七
昭和元年	三三〇・五	一六二・二八五	六、二八七	三九・六	五、七五六	一四・五二	二、〇一七
" 五年	三三〇・一	一六一・八九六	六、二八三	三九・四	五、七四〇	一四・五七	二、〇一九
" 八年	三二九・五	一二一・六八五	六、三三三	三六・九	四、一〇四	二・一二	一、九〇七
宅地				山林			
大正四年	八〇・四一三	三一・八二〇	一、一四七	九九六・五	三、三四〇		一九〇五
" 十年	八〇・五九三	三二・三二四	一、一九三	九九九・一二	三、三八五		一九五六
昭和元年	八二・六五三	三三・一四三	一、二三〇	九九四・九	三、三三五	・三三	二、〇九六
" 五年	八二・四八三	三三・三六三	一、二四五	九九五・二	三、三三六	・三四	二、一一七
昭和八年	九三・三〇〇	一六・〇八二	一、四三三	九九七・〇	四、二二〇	・四二	二、二〇九

昭和五年	二七〇〇〇	吹上	六六〇〇	塩屋	四六〇	吹上	四六
" 九年	一二〇〇〇	"	一〇〇五	"	一〇〇〇	"	一〇〇〇

昭和元年	本庄上組	最高	反金 一一五	場所	吹上	最低	反金 二
" 五年	"	"	"	"	"	"	"
" 九年	"	"	九〇	"	"	"	四〇
西組	場所	最高	反金 四六	場所	上組	最低	反金 二二
上組	場所	最高	九〇	場所	吹上	最低	四〇

第七款 港灣統計
阿萬港移出入貨物品種別 (昭和九年度)

出		入	
品種	單位	數量	價格
米	六石	三五	五一八〇
		四	五九二
		一〇	一四八〇
		一一	一六二八
		三五	四七二五
		一五	一一四〇
品種	單位	數量	價格
麥	二五	一九〇〇	兵庫
計	一三五	一六六四五	神戶
輕八五〇	二二〇〇	二二〇〇	神戶
"	一三八〇	一三八〇	大阪
"	五〇〇	五〇〇〇	下關
"	二五〇	二五〇〇	飾磨
品種	單位	數量	價格
麥	二五	一九〇〇	兵庫
計	一三五	一六六四五	神戶
輕八五〇	二二〇〇	二二〇〇	神戶
"	一三八〇	一三八〇	大阪
"	五〇〇	五〇〇〇	下關
"	二五〇	二五〇〇	飾磨

玉葱八五〇斤 一五〇〇 高知 " " 一五〇〇 徳島 " " 三〇〇〇 高地 計 三、〇三〇 五〇、三〇〇	和酒二、八 ^石 二九 六六七〇 灘 四 九二〇 由良 一 二三〇 浅川 二 四六〇 大阪 計 三六 八、二八〇 三〇 四、二〇〇 大阪	餅 四四五 ^斤 計 三〇 四、二〇〇 大阪 三〇 四、二〇〇 大阪 四 四四〇 大阪 三 三三〇 神戸	砂糖 八〇 ^斤 " " 三 三三〇 神戸 計 七 七七〇 八二、一二八 大阪 八二、一二八 大阪	砂糖 一五〇〇斤 計 七 七七〇 八二、一二八 大阪 八二、一二八 大阪	計 二五〇 八、五〇〇 大阪 二五〇 八、五〇〇 大阪
石炭一六八〇 ^斤 計 三〇〇 八、五〇〇 三〇〇 四、〇〇〇 若松 一、八〇〇 二、八〇〇 唐津 一、二〇〇 一、九二〇 大阪	石炭一五〇〇 ^斤 計 六〇〇 九、〇〇〇 一、五〇〇 一、二五〇 徳島 六〇〇 一、二〇〇 和歌山由良	石炭一五〇〇 ^斤 計 七五〇 一四、八五〇 七五〇 一四、八五〇	計 三五〇〇 三五〇〇 徳島 三五〇〇 三五〇〇	計 三五〇〇 三五〇〇 三五〇〇 三五〇〇	計 二六〇〇 二六、〇〇〇 二六〇〇 二六、〇〇〇 徳島 二六〇〇 二六、〇〇〇 京都 八、四〇〇 八、四〇〇 和歌山 一、三、四〇〇 一、三、四〇〇 大阪 一、三、四〇〇 一、三、四〇〇 大阪

肥料	一五〇	吹	
豆粕	三五〇		一九九五〇 神戸
海産	九〇		九、四五〇 "
"	四〇		四、一六〇 大阪
配合	二〇〇		九、二〇〇 "
"	二〇〇		八、〇〇〇 尼崎
化成	二八		一、六八〇 大阪
植物	二〇		一、〇六〇 神戸
鉱物	一一		七九二 "
人造	四〇		二、四八〇 "
配合肥料	二〇〇		一四六〇〇 兵庫
計	一、二七九	七、一、三七二	和歌山
林産	一一、一〇〇	二、三四、二〇〇	徳島
"	四、八三〇	一〇六、二〇〇	和歌山
"	二、一〇〇	四六、二〇〇	吉野
板	三〇〇	三、六〇〇	大阪
"	七〇	二、九四〇	徳島

板	四石		二〇〇	八、四〇〇	和歌山
計			一八、六〇〇	三、三〇〇	和歌山
薪	四〇	才	一五三	三〇六	撫養
計			一五三	三〇六	
竹材	四〇	才			吉野
計			一四〇	七〇〇	
雜品					
菰	四〇	才	五一〇	三、五七〇	大阪
"			六三	四四一	神戸
"			六二	四三四	明石
計			六三五	四、四四五	
合計	三五、八二九		三、四六、八七六	二九、〇六七	六二八、四〇二

第五章 警察

第一款 本庄駐在所

明治二十三年三月ヨリ阿萬駐在所ノ設置アリ。全三十六年四月一日ヨリ塩屋・吹上・佐野ヲ十區トシ、其他ヲ九區トス。受持巡查氏名左記ノ通り。

三十二年以前 不詳

明治三十二年	就任	榊 瀨平	明治三十二年	就任	増田 岸平
三十六年	内田 順蔵	三十六年九月	稗田 榮之進		
三十七年六月	伊 嘉十郎	三十八年一月	和田 鉄太郎		
三十九年三月	廣瀬 秀次郎	四十年一月	吉田 原七		
四十年十一月	影山 伊之助	四十年十一月	松田 増太郎		
四十一年六月	原 為吉	四十一年八月	黒瀬 金五郎		
四十二年一月	落合 惣二郎	四十四年七月	有馬 榮吉		
大正二年五月	村上 藤次	大正二年九月	赤藤 角次		
三年九月	仁尾 豊吉	四年七月	木村 正一		
五年三月	露本 政太郎	六年九月	高内 彦一郎		
八年八月	人見 善次	八年八月	坂元 等		
十一年五月	渡辺 喜秋	十三年四月	大谷 倉吉		

昭和二年四月	就任	中江嘉平	昭和三年九月	就任	井上藤次郎
" 九年一月	"	豊田次夫	" 十年三月	"	堀部熊平
明治四二年二月	就任	小西弥一郎	明治四十二年四月	就任	武部均
" 四五年三月	"	馬生圓蔵	大正 四年八月	"	露木玖太郎
大正五年三月	"	長井竹次郎	" 五年七月	"	宮地信吉
" 六年一月	"	人見善次	" 六年九月	"	浮森佐忠
" 七年三月	"	中江嘉平	" 八年九月	"	幸濱仁三郎
" 九年二月	"	北原今吉	" 十年五月	"	渡辺喜秋
" 一一年五月	"	本山常馬	" 十一年十月	"	光岡喜平
" 一二年五月	"	大谷倉吉	" 十三年六月	"	中石益喜
" 一五年八月	"	藤本徳蔵	昭和 二年四月	"	大松玉之助
昭和四年二月	"	光岡喜平	" 六年十二月	"	三宅唯一
" 九年三月	"	関根金助	" 十年八月	"	中江嘉平

第二款 西村駐在所

第六章 消防組

第一款 沿革

明治初年ヨリ中葉ニカケ、消防ニ関シテハ別段組織的ノ組成ナク其器具ノ如キモ漸ク流筒水ノ

如キ不完全ナル小器具ヲ備フル家間々アリシ程度ナリシガ明治末葉ニ入りテ藥品ト水ヲ充填セ
ル輕便消火器ヲ各所ニ備フルニ至リ、或ハ手押ポンプモ先覺部落ニテ共同購入スルアリ漸ク団
体的組織ト稍進歩シタル器機ニ依ル消火力ヲ發揮スルニ至レリ。

明治四十三年六月二十九日上組、塩屋組、西組消防組ヲ年度内ニ公設ニ變更スベク決定セリ。
更ニ愈々十五年ニ到リ各組統一ニ関スル件決定シ阿萬村消防組新設サル。

第二款 組成及役員

一	公設本庄上組消防組	組頭 一名	小頭三名	第一部	小頭四名
一	下組	"	"	第二部	"
一	塩屋本村	"	"	第三部	"
一	吹上	"	"	第四部	"
一	私設中西	"	"	第五部	"
一	公設西本組	"	"	第六部	"
一	東組	"	"	第七部	"
一	右ヲ統一シ阿萬村消防組ヲ新設組頭一名ヲ置キ之ヲ九部二分チ頭書ノ通り部長ノ外ニ小頭ヲ置ク事トナレリ。			第八部 (佐野)	"
				第九部 (丸田)	"

昭和二年 就任 銀山惣吉

昭和四年二月就任

大西文次

“ 四年十月 ”

谷口龜五郎

統一後ノ各部々長

第一 部 長

昭和 二・四・一四就 大西文次

“ 四・三・七 宮本芳太郎

“ 七・五・一四 大西又一

“ 一・四・二〇 榎本友四郎

第二 部 長

大正 一五・九・二六 松本弥平

昭和 一・四・二〇 狭間玉市

第三 部 長

大正 一二・一二・二一 田岡勝郎

第四 部 長

大正 一五・五 阿部萬蔵

昭和 四・四 阿部平一郎

“ 八・二 阿部牛蔵

昭和 一・四・二〇就

第五 部 長

大正 一四・一 川添藤平

昭和 五・一 川添清治

“ 一・四・二〇 南盛夫

第六 部 長

昭和 二・四 岡本義一

“ 九・三 藤本卯八

“ 一・四・二〇 榎本民一

第七 部 長

昭和 二・四 興津三次郎

“ 五・一 中山快蔵

“ 八・一 楠木克巳

“ 一・四・二〇 赤榎芳市

第八部長

大正一三・四 就 櫻田長策

昭和一一・四・二〇 大西頼平

昭和四・四 櫻木貞雄

第九部長

昭和九・七 山口政一

五・一 藤本勝久

一一・四・三〇 梅谷惠市

第七章 軍事關係団体

第一款 戰友會

創立 昭和七年九月一八日

役員並會員數 (昭和一一年現在)

會長 銀山惣吉

副會長 倉本伊平 坂本熊平

理事 江本龜市 郷国平 前川伊平 坂本熊平 大谷儀市 川淵久吉

阿部平一郎 川曾清 池本惣吉 樫本勝

會員數 一二三

上組 二一 佐野 五

下組 九 中西 八

塩屋 六 吹上 一四

他郷在住者 三五

丸田 三

西組 九

東組 一三

ロ. 會員範圍 並 目的

會員範圍 本町在住陸海軍人軍属ノ戦役ニ従事シタルモノ

目的・事業

1. 軍人精神ノ本旨ヲ過マラズ遺憾ナカラシム
2. 入退軍人送迎ヲナシ志氣ヲ鼓舞シ、戦地ニ從軍中ハ時々慰問、感謝ノ意ヲ表ス。
3. 戦死者ノ靈ヲ弔ヒ其遺族ノ優遇ニカム
4. 會員相互扶助

ハ. 帶 勲 者

從六位勲五等 渡辺正二

正七位勲七等 江本正之

從七位勲七等 岡本長七

從七位勲八等 大西文吉

從七位 岸上岡市

正八位 岡本一雄

勲七等青色桐葉章瑞宝章

勲七等青色桐葉章 倉本伊平

勲七等白色桐葉章瑞宝章

勲八等功七級 水本時蔵

中西康人

江本新七

平松伊平

前川与吉

森本常平

阿部平一郎

坂本熊平

江本宇平

藤原永一郎

岩井大平

木下利市

藤平彦太郎

岡本正次郎

渦古久吉

阿部芳雄

池本惣吉

勲八等白色桐葉章 山本新五郎 長尾由平 江本万兵衛 齊藤政吉 坂本高吉 阿部福太郎

鈴木柳平 宮口伊助 鈴木友平 阿部藤吉 鈴木利市 原川藤吉 前川伊平

赤穂正義 江本政二郎 桑島喜一 新田弥市 奥浜虎吉 谷口安平 櫻田福松

小原新吉 森内國吉 東所鶴松 江本厩一 土居高次郎 園生又市 赤穂熊市

郷喜四郎 川原富次郎 出田三次郎 江本定吉 郷 春吉 東所重平 阿部石太

川曾米藏 阿部鶴平 川淵久吉 阿部宇平 岡山喜吉 松山幸次 武田猪助

岡本安吉 濱崎安平 北本萬吉 井上安夫 奥浜武夫 釣矢福松 境 忠平

川曾 清 森本徳吉

勲八等瑞宝章 藤平熊平 境浅次郎 龜淵官吉 榎本喜藏 宮西周吉 園生利吉 新田貞市

森上長平 山口熊平 森内勘吉 北崎熊太郎 谷口壽一郎 谷口文五郎

阿部萬吉 田中菊太郎 櫻田隆次郎 宮本福一 岸上政市 江本亮介 銀山惣吉

中田松吉 園生峰三郎 江本龜市 石井角太郎 江本貞夫 郷 国平 榎勢勇吉

高田格郎 木下孝三郎 井上次平 東良信男 由良駒夫 興津益男 谷本長平

南山安男 榎本 勝 谷本長平

第二款 軍友會

創立 昭和十一年十月七日

イ 役員 並 會員數

會長 谷口龜五郎

副會長 宮本芳太郎 松本弥平

理事 大西又一 田岡勝郎 坂部直平

幹事 阿部平一郎 岡本高市 川添清次

班長 (上) 清水光平 (下) 松本弥平 (塩) 田岡勝郎 (佐) 谷川政次郎

(中) 川添清次 (吹) 阿部平一郎 (西) 榎本和平 (丸) 片山初蔵

(東) 坂部直平

顧問 銀山惣吉 倉本伊平 坂本熊平 森本常平 阿部福太郎

池本惣吉 齊藤政吉 森本徳吉

會員數 二九六名

ロ 會員範圍

正會員 軍人會阿萬町分区域内ニ居住スル退役軍人

名譽會員 会ノ趣旨ニ賛同シ精神的物質的援助ヲナス者ニシテ役員会ニテ推薦セル者

ハ 目的及事業

1. 在郷軍人会阿萬町分会ノ後援ヲナシ發展ヲ助成シ、社会ノ公益風教ノ振作ヲ図ル。
2. 會員ノ相互和親扶助ト慶弔慰藉ヲ行フ
3. 阿萬町分会ト連繫協力シテ事態ヲ実施ス

第三款 在郷軍人分會

第一目 沿革

阿萬町分會ノ前身ハ阿萬村在郷軍人會ニシテ明治二十八年ノ頃創立サレタルモノノ如キモ詳細不詳ナリ。

明治三十三年十二月陸軍歩兵軍曹阿部豊吉氏會長ニ推舉セラル、ニ及ビテ一般ノ軍事意識ニ乏シク會ノ有名無実ナルヲ慨シ大イニ之ガ振作ヲ計ラントシ士氣ヲ鼓舞激勵シテ休日ヲ利用シテ共同柴刈等ヲ行ヒ財源ヲ捻出シテ或ハ器械体操等ノ設備ヲナシ体育運動ノ獎勵ヲ行ヒ或ハ會員ノ集會ヲ始メ軍事思想普及ノ徹底ヲ期シ或ハ新兵入營前ノ豫習教育ヲ初ムル等目ザマシキ活躍ヲ進メツ、アリシガ恰モ明治三十七、八年日露戦争ノ勃発ニ當リ阿部會長ノ出征トナリテ一時停頓ノ状態トナリシガ明治三十九年一月同氏凱旋ト共ニ再ビ會長トシテアラユル画策ヲメグラシ活躍ノ歩ヲ進ムルニ至レリ。

明治四十三年十一月三日帝國在郷軍人會ノ設立サル、ニ及ビテ帝國在郷軍人會阿萬村分會ト改稱セリ。昭和十一年十月帝國在郷軍人會 組織ニ関スル勅令發布実施セラレ一躍任意団体ヨリ法的団体トシテ認めラル、ニ至リ更ニ全年十一月三日明治ノ佳節ニ當リ畏クモ大元帥陛下ヨリ勅語御下賜ノ恩寵ニ浴ス

第二目 事業ノ經過概要

大正三年一月、軍曹平松伊平、翌年伍長藤平覺一両氏夫々分會長ニ就任サル、ニ及ビ諸帳簿ノ

整備、事業ノ躍進ヲ画策サル

大正五年一月常務理事ヲ新設、上等兵前川逸雄、宮本芳太郎両氏就任、大正六年更ニ一名ヲ増加大西文次氏ヲ推舉シ、三理事ヲ中堅トシテ班及組ノ編成ヲナシ各種新事業ヲ起シ模範分会ノ基礎漸クニシテ成レリ。

大正五年一月一日ヨリ三大節ニ於テ遙拜式及勅語勅諭ノ奉讀式、新年宴会等ヲ始メ陸軍記念日ニ郷社境内ニ於テ青年団ト協力武術競技会、軍事講習会等ヲ始ム。

大正五年二月 戦友雜誌ノ購入ヲナシ各組ニ無償配布ヲ始ム。

大正四年 会員死亡者ヘノ会葬、入退營兵ノ歡送迎、軍隊慰問等ヲ始ム。

全年八月一日 點呼参加者ノ豫習教育ヲ始ム。

〃 分會旗調製

大正六年 一月 一日 分会總會ヲ催シ班ノ編成ヲ行ヒ九班二分ツ

全年 四月 郷社八幡境内ニ招魂塔ヲ建設

大正七年 四月 戦病死者ノ法要ヲ行ヒ戦病死者ノ月例墓参実行ヲ定メ其役割ヲ定ム

全年 基本財産造成ノ目的ヲ以テ山林ノ借受利用ノ途ヲ講ズ

全年 年七月二十五日 帝国在郷軍人会長寺内正毅閣下ヨリ表彰ヲ受ク

大正十一年四月十六日 招魂碑建設 竣工除幕式ヲ舉行ス

〃 十二年十二月 一日 大阪支部長土屋大佐ヨリ関東大震災ニ際シ表彰状ヲ受ク

昭和 二年十月四日 射撃会ヲ初メテ開催ス

三年二月十一日 陸軍大臣ノ表彰ヲ受ク

十年四月廿三日 日露戦役三十周年記念招魂祭舉行

十一年十月一日 射撃場建設工事着手

十一年十一月廿三日 本年明治節ニ当リ 在郷軍人ニ賜リタル勅語奉戴式

十一年十二月廿八日 射撃場竣工式

十二年 三月 在郷軍人、青年団共有山林間伐

第三目 歴代ノ役員

分会 長 副分会 長

明治三三・一二就任阿部豊吉 自大三至大二 谷口亀五郎 自昭四〃昭六 井上安夫

大正 二・一二 平松伊平 〃大四〃大七 阿部壁太郎 〃昭六〃昭九 榎本友四郎

〃 四・一 藤平覺一 〃大七〃大九 前川逸夫 〃昭八〃昭九 藤井愛郎

〃 一二・一 谷口亀五郎 〃大九〃太一四 大西文次 〃昭九〃昭一二 渦古榮吉

〃 一四・七 宮本芳太郎 〃大一〃大一四 宮本芳太郎 〃 〃 前川安市

昭和 四・八 大西又一 〃大一四〃昭二 松本弥平 〃昭一一 松山重吉

〃 八・一 楠木克己 〃大一四〃昭二 赤穂梅三郎 〃昭一一至昭一一 桑木勝市

〃 九・一二 藤井慶郎 〃昭二 〃昭四 大西又一 〃昭一一至昭一二 金一 徹

昭二至昭八 楠木克己 〃昭一二 鈴木 勝

歴代理事

宮本芳太郎 前川逸夫 大西文次 松本弥平 本條国八 清水光平 赤穂梅三郎 榎本和平
 大西又一 森本定次郎 楠木克己 井上安夫 倉本龍一 前川安市 榎本友四郎 藤井慶郎
 末広福衛 渦古榮吉 服部松夫 藤本勝 阿部喜一郎 松山重吉 桑木勝市 金一 徹
 片山三吉 榎本保雄 鈴木勝 垣脇熊夫 長谷要 岡本為一 山岡定吉

歴代監事

水崎熊平 森本常平 榎田隆次郎 榎本高平 赤穂梅三郎 谷口亀五郎 田岡勝郎
 赤穂亀吉 蔭山薫 村上安夫 榎本友四郎 西中三吉 阿部亀市 服部松夫
 倉本勇 阿部喜一郎 松山重吉 藤本勝 西下勘兵衛 榎本保雄 榎本武夫
 鈴木勝 岡本為一 長谷要 榎本敏男 榎本勝 櫻木敏晴

第八章 尚武會

第一款 上組 尚武會

1. 起源 明治三十八年三月一日

2. 設立趣旨 會則ノ通り

3. 創立者 藤平彦太郎 江本正之

4. 當初役員 會長 藤平彦太郎 副會長 江本正之
 幹事 榎本兵次郎 前田伊平 蔭山澤吉 岸上元吉 前川安城 郷 孫助

安宅常一 榎本幸一 岸上幸次 金一元次 榎田政市

5. 明治四十三年二月改選 二代役員

會長 江本正之 副會長 郷 孫助

幹事 榎本兵次郎 榎本善九郎 榎本峯吉 前川安城 大西岩一 榎田政市
金一元次 江本今平

6. 昭和五年九月幹事改選

小原喜和市 榎本利男 銀山惣吉 榎本高平 江本金作 金一元次
榎田長策 山本利一 江本政二郎 安宅義人 宮本芳太郎 大西又一

7. 會員卜出資金

金拾 円也 藤平彦太郎 江本正之 以上名譽會員

金四 円也 榎本兵次郎 赤穂寅吉 佐渡惣太郎

金參 円也 前川安城 龜岡徳広 郷 孫助 堤庄三郎 溪神寂惠

金二 円也 江本管蔵 安宅常一 高田格郎 江本力太郎 榎本善平 金一品蔵

庄田秀蔵 以上特別會員

金壹円五十錢 清水権平 庄田善吉 江本今平 榎田和吉 前田庄三郎 安宅甚太郎

宮本安吉 岸上幸次 金一信吉 藤平弥市

金壹円四十錢 前田松郎

金壹円貳拾錢 大石永太郎 藤平熊平

金壹円也 末広長吉 小原国太郎 前田福松 前田伊平 蔭山澤吉 銀山春吉

榎本善九郎 岸上貞吉 岩倉龜太 江本鹿藏 園生芳藏 榎田恒吉

安宅幸吉 山本円吉 藤平喜平 阿萬岩太郎 森川本藏 榎本鉄藏

榎本藤七 前川嘉藏 赤穂常吉 江本長平 榎本幸市 金一作兵衛

大西岩市 大西運平 川原又市 稲田幸吉

金八十錢 宮本勘吉 長尾由平 北原次平

小林利三郎

金六十錢 山本文吉 中川新五郎 武田武吉 江本由吉

藤平儀平 叶 宇平 赤穂政太郎 赤穂セイ

金五十七錢 増水富三郎

宮西庄二郎 前田喜八 園生嘉市 武田藤太 榎本高平 清水利夫 森田金次 金一弥平

前川源藏 園生岩藏 榎田房吉 安宅政吉 榎本熊吉 大西益藏 森下庄平

佐野喜一郎 垣脇平太郎 赤穂平二郎 宮本吉次

金四十錢 園生宮吉 前田利之吉 武田加名藏 榎本峯吉 庄田喜平 園生幸兵衛

管禮之助 大西貞藏 藤平藤太 末廣金八

金三十 錢 末広文七 藤平庄平 小原文蔵 前田貞吉 蔭山喜代太 北原喜平 郷由吉

大西勤作 前川歌吉 三浦逸次 長谷品吉 前川瀧蔵 江本平吉 寺岡瀧蔵

金二十五 錢 江本兵蔵 江本連太郎 藤平喜代太

金二十 錢 江本善七 赤穂浦太郎 森田新平 亀井勇吉 岸上半蔵 森田由太

坂本嘉平 庄田伊平 江本喜代助 黒田傳七 蔭山田吉 園生春吉

金十 錢 江本行平 江本政蔵 郷喜四郎 江本市太郎

金五 錢 岸山行蔵 大西吉平 以上百三十四名

出資金合計 老百参拾七円六拾参銭五厘 也

8. 右ノ外戦時ニ於テハ会費ヲ徴収、出征兵士ノ慰問戦死者弔慰入退營兵ノ送迎等ニ充当シタリ。

9. 會報ヲ発行シテ会務ノ報告會員相互ノ親睦ヲ計リ併而入營兵ニ郷里ノ情况ヲ通報セリ。

10 入營報告祭 現在行ハル、入營兵報告祭ハ本会ノ発案ニシテ從來本会主催ノ下ニ上組入營兵

ノ報告祭ヲ執行シタルモノナルガ、其後村ヲ一丸トスル報告祭ニ、更ニ両阿萬合併ニ迄進展セリ。

11 表彰ノ歴史

上組尚武會

明治三十七、八年戦役中團體及篤志者ニ於テ各種後援ノ施設ニ依リ奉公ノ義ヲ竭シ、段御満
足ニ被思召別紙寫ノ通り御沙汰アリタリ

明治三十九年七月二十六日

兵庫縣知事

服部

一三

明治三十七、八年戰役ノ際団体及篤志者ニ於テ師ヲ犒ヒ兵ヲ恤ミ以テ志氣ノ振勵ニ努メ産ヲ授ケ窮ヲ濟ヒ以テ出征者ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメ寡独ノ慰藉老幼ノ保護其他各種後援ノ施設亦咸宣シキニ適ヒ所在相應ジテ国民奉公ノ義ヲ竭シシ段御満足ニ被 恩食候旨恩沙汰候事
12 本庄上組尚武會々則

第一條 本會ハ軍人精神ヲ涵養シ尚武ノ氣性ヲ振興セシムルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ上組住民ヲ以テ組織ス

第三條 本會ニ入会セントスル者ハ會長ニ申込ミ會員名簿ニ捺印スベシ

若シ不得止事情ニ依リ退会セントスル時ハ其旨會長ニ申出役員ノ同意ヲ得ルヲ要ス。

第四條 本會ニ於テ施設スベキ事業概ネ左ノ如シ

一 新兵入營及応召軍人並ニ歸郷軍ヲ送迎スルコト

二 傷病軍人ヲ慰藉シ戰死者ヲ弔フコト

三 戰時若クハ事變ノ際ハ出来得ル限り現役軍人及応召軍人ヲ慰問シ、且家族若クハ

遺族ノ扶助ヲ図リ或ハ軍隊ヲ犒ヒ行事ニ便誼ヲ与フルコト

四 左ノ外會議ニ於テ必要ト認メタル事項

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 副會長 一名 幹事 十二名 但シ無報酬トス

第六條 會長ハ会務ヲ總理シ本會ヲ代表ス。

第七條 副会長ハ会長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ之ヲ代理シ會長ト共ニ財産ヲ管理スルモノトス。

第八條 幹事ハ會長ノ指導ヲ受ケ會計ノ整理ヲ計リ會務ノ擴張ニ從事スルモノトス。

第九條 役員ハ総テ二ケ年ヲ以テ任期トシ會長副會長ハ總會ニ於テ選舉シ、幹事ハ會長ヨリ指名囑託スルモノトス。

第十條 本會ハ毎年一月通常總會ヲ開キ會務ノ報告ヲナス。但シ會長ニ於テ必要ト認メ或ハ役員ニ於テ必要ト認メ三分の一以上同意アル時ハ臨時會ヲ開クコトアルベシ。

第十一條 會議ハ會長之ヲ召集シ會場及期日ハ其都度會長ニ於テ之ヲ定ム。

第十二條 會議ハ會員半數以上出席スルニ非ザレバ開會スルコトヲ得ズ。

第十三條 又議事ハ過半數ニ依リテ決スルモノトス。但シ可同數ノ時ハ會長ニ於テ決スルモノトス。
本會々員ハ左ノ三種トス

- 一、 通常會員
- 二、 特別會員
- 三、 名譽會員

第十四條 通常會員ハ一ケ年金十二錢毎年六月、十二月中幹事ヘ納付スルモノトス。

特別會員ハ一時ニ金貳円以上ヲ納ムルモノトス

名譽會員ハ陸海軍將校或ハ特別會員中特ニ本會ノ為尽力シタルモノ又ハ軍事ニ功勞アリタルモノ並ニ二十円以上ノ基金ヲ提出シタルモノ

第十五條 特別會員ノ會費ハ本會ノ基本財産ニ積立置キ其ノ利子ヲ以テ本會ノ費用支弁ニ充ツ。

第十六條 本會ノ出納ハ総テ通常會員ノ會費基本財産ノ利子其他有志ノ寄附金ヲ以テ其ノ収支

ヲ計ルモノトス

第十七條 本會ハ事務整理ノ為メ左ノ帳簿ヲ設ク

一 議事録

一 經費出納簿

一 會務ニ関スル往復書類綴

一 財産原簿

一 會員名簿

一 其他必要ナル簿冊

一 會費徵收簿

第十六條 規定ハ總會ノ決議ニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ

第二款 吹上尚武會

上組尚武會ト同趣旨ノ下ニ吹上尚武會ノ設立サル、アリ、當時の役員左ノ如シ

會長 阿部平太郎

副會長 阿部信平

幹事 阿部千賀藏 阿部喜代藏 阿部国吉

完